

2023年3月13日 第153回運輸政策コロキウム

「公共交通とソーシャルキャピタル」

宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日は、足下の悪い中こちらの会場にお運び頂き、また、オンラインでも大変多くの皆様にご参加いただいております。誠にありがとうございます。

本日の運輸政策コロキウムでは、「公共交通とソーシャルキャピタル」というテーマについて、皆様とご一緒に考えてみたいと思います。

本日発表する当研究所の覃研究員は、2021年に当研究所にこられる前から、内閣府の地方創生の研究プロジェクトの中で、日本の「ソーシャルキャピタル」について研究調査をされていました。

「ソーシャルキャピタル」という概念については、「ひとびとの絆のようなつながり」を意味する、と承知しております。そして、ソーシャルキャピタルという概念から例えばインフラなど何かを評価するということは、経済的価値とは別の観点で、社会的価値の観点から評価することになると思われれます。

覃研究員は、当研究所に着任以来、このソーシャルキャピタル論を土台としながら、地域交通に目を向け、「公共交通とソーシャルキャピタル」というテーマで個別研究に取り組んでいます。

この比較的新しい研究テーマについては、昨年7月の当研究所の研究報告会において、覃研究員から、「公共交通利用がソーシャルキャピタル醸成に与える影響について」と題して、最初の研究発表がありました。

また、覃研究員は、その時点における研究成果について論文の発表を行った結果、昨年9月にオーストラリアのシドニーで開催された「陸上旅客交通における競争と所有形態に関する国際会議」(Thredbo)<sup>注</sup>第17回において、全86論

文中わずか2本に与えられる、Sustainable Innovation Awardを受賞し、欧米を含む世界の交通研究者からも注目を集めつつあります。

一方で、さきほどご紹介した研究報告会の参加者のアンケート調査では、ソーシャルキャピタルについて、馴染みがないのでわかりやすく解説してほしい、というご要望が寄せられました。

実のところ、ソーシャルキャピタルについては、当研究所内においても、一部のメンバーを除いて、十分に理解されているとは言えない状況です。

そこで、ソーシャルキャピタルの概念とその意義について改めて正しく把握した上で、覃研究員のその後の最新の研究結果を共有して、議論することによって、ソーシャルキャピタルと公共交通の関係についてさらに理解を深めることにしたい、と考えて、本日のコロキウムを企画した次第です。

本日は、まず最初に、東北大学大学院環境科学研究科の埴淵知哉准教授から「ソーシャルキャピタルの概念とその意義」についてご講演をいただきます。

次に、覃研究員から「公共交通利用がソーシャルキャピタル醸成に与える影響」と題して最新の研究成果の発表を行います。

そして、関西大学経済学部の宇都宮浄人教授から、覃研究員の発表に対するコメントを頂きます。

その後、当研究所の山内所長のコーディネートにより、登壇者同士で議論をしていただくとともに、ご参加いただいている皆様との質疑応答を行います。

本日のセミナーが、ご参加いただいております皆様にとりまして、新たな気づきや示唆を与え、有益なものとなることを期待しまして、私の挨拶といたします。

注) 世界各地で持ち回りで2年毎に開催されているが、第1回が1989年にオーストラリアのThredboで開催されたことに因んで、Thredboと称されている。

(以上)